

2022年度 学校教育評価表

(伊香立小学校)

A: 3.0-2.5 B: 2.4-1.5 C: 1.4-0

項目	教職員により自己評価 (3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった)			保護者によるアンケート (3:そうである・2:どちらかといえばそうである・1:どちらかといえばそうでない・0:そうでない)			児童アンケート (3:そうである・2:どちらかといえばそうである・1:どちらかといえばそうでない・0:そうでない)			学校協力者評価 (3:そうである・2:どちらかといえばそうである・1:どちらかといえばそうでない・0:そうでない)			評価委員会 (3・2・1・0)				
	評価の観点	評定	昨年度	評価項目	評定	昨年度	評価項目	評定	昨年度	評価項目	評定	昨年度	評定	昨年度	意見・提案等	来年度に向けての改善点	
主体的・対話的で深い学び	1	2.1	B	2.4	2.4	B	2.5	2.5	A	2.7	2.7	A	2.7	2	2	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.3のため。	
	2	2	B	2.3	2.1	B	2.2	2.4	B	2.5	2.4	B	2.5				
	3	2.2	B	2.1	2.1	B	2.1	2.4	B	2.5	2.4	B	2.5				
道徳教育の充実	4	2.4	B	2.5	2.3	B	2.3	2.5	A	2.5	2.2	B	2.5	2	2	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.31のため。	
	5	1.9	B	2.3	2.1	B	2.1	2.5	A	2.5	2.5	A	2.5				
	6	2.1	B	1.6	2.1	B	2.1	2.5	A	2.5	2.8	A	2.8				
体力づくり	7	2.2	B	2.4	2.5	A	2.5	2.7	A	2.7	2.5	A	2.5	2	2	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.5のため。	
	8	2.3	B	2.2	2.5	A	2.6	2.6	A	2.6	2.6	A	2.6				
	9	2.3	B	2.1	2.5	A	2.6	2.7	A	2.8	2.7	A	2.9				
指導改善 (組織的・計画的)	10	2.1	B	2.3	2.2	B	2.4	2.7	A	2.8	2.5	A	2.5	2	3	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.37のため。	
	11	2.1	B	2.1	2.4	B	2.4	2.7	A	2.6	2.5	A	2.5				
	12	2	B	1.9	2.2	B	2.3	2.7	A	2.8	2.7	A	2.9				
育ちと学びを支える連携	① 家庭・地域・協働との	13	2.2	B	2.3	2.4	B	2.3	2.5	A	2.6	A	2.6	2	3	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.48のため。	
		14	2.4	B	2.5	2.4	B	2.5	2.4	B	2.5	2.8	A				2.9
		15	2.2	B	2.3	2.5	A	2.5	2.9	A	3	2.5	A				2.7
	② 保幼小中の	16	1.6	B	1.7	2.4	B	2.5	2.5	A	2.8	2.5	A				2.7
		17	2.2	B	2.2	2.4	B	2.5	2.5	A	2.8	2.5	A				2.7
18	1.5	B	1.6	2.4	B	2.5	2.5	A	2.8	2.5	A	2.7					
① 生徒指導体制の	19	2.5	A	2.5	2.4	B	2.6	2.7	A	2.7	2.3	B	2.6	2	3	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.44のため。	
	20	2.4	B	2.5	2.3	B	2.5	2.5	A	2.6	2.6	A	2.5				
	21	2.3	B	2.4	2.4	B	2.5	2.9	A	2.7	2.4	B	2.7				
		2.4	B	2.5	2.4	B	2.5	2.9	A	2.7	2.1	B	2.1				
② 特別支援教育の	22	2.2	B	2.2	2.4	B	2.5	2.4	B	2.5	2.1	B	2.4	2	2	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.3のため。	
	23	2.3	B	2.2	2.4	B	2.5	2.4	B	2.5	2.1	B	2.4				
	24	2.4	B	2.5	2.4	B	2.5	2.4	B	2.5	2.1	B	2.4				

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	2.5	2.6
-------	----	------------	-----	-----

※ 児童生徒アンケートのすべての評価の平均値 (3点満点、小数第2位まで記入)	2.61
※ 保護者アンケートのすべての評価の平均値 (3点満点、小数第2位まで記入)	2.34

別紙参照

項目	評価委員会 (3・2・1・0)		意見・提言等	来年度に向けての改善点
	評定	昨年度		
主体的・対話的で深い学び	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.3のため。 総合的な評定は、昨年度よりも下がっている。 コロナ禍で教育活動に制限がかかっていたこともあり、特に1、2学期は子どもたち同士の話し合いや協同的な学習スタイルが作りにくかったことは否めない。また、生徒指導体制の充実でも現れているが、「正しい言葉づかい」ができていない児童も多数いる。児童や保護者の評定が下がっていることを真摯に受け止めて、学びに向かう学級づくり、そして子どもが安心して学び過ごせる学級づくりに取り組まなければならない。</p>	<p>①主体的・対話的で深い学びには支持的風土は欠かすことができない。お互いを認め、尊重しあえる学級づくりを構築するために、言葉遣いをもう一度全校で見直す。 ②コロナによる制限が緩和されたら、積極的に体験的な学習を取り入れ、友だちの良さを再確認するとともに、協同することの楽しさを実感できる学習を行う。 ③子どもたちの学びをさらに深めるため、本年度以上に校内研究の質を高めるとともに、子どもたち自身が学んだことを実感するために「振り返り」の充実を図る。</p>
道徳教育の充実	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.31のため。 総合的な評価で見ると昨年度よりも0.05評価が下がっている。 ①コロナの影響で今年も縦割り活動がほぼできなかった。そのため、上学年が下学年の面倒をみたり遊んだりする姿も今までと比較すると減ってきている。 ②道徳科では、今年度も中学校と合同で研修を行うことができた。9月の参観で全クラス道徳の学習を公開したが、公開時間も15分と短く、通信などで発信することも少なかった。</p>	<p>①コロナの制限が減る来年度からは、縦割り活動を復活させ、縦の交流のきっかけ作りを行う。 ②道徳科での学びの様子、子どもたちの気づき等、HPや通信で発信する機会を設ける。</p>
体力づくり	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.45のため。 ①今年の運動会では午前中だけであったが、全校児童が一同に集まって行うことができたことや保護者や来賓の方にも参観していただけた。ただ、昨年度よりも総合的な評価で0.04評価が下がっており、次年度は児童にとって魅力ある学習活動になるよう授業や取り組みの工夫改善を行ったり、全校で1つの目標に向かって取り組めるような活動を仕組んでいったりしていきたい。 ②本校の体力テストでは「投げる力」に課題が見られる。「投げる力」育成に視点を置いた活動に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>①全校で共通で縄跳びの取り組み(活動前の5分間縄跳び・縄跳びカードの作成・縄跳びの掲示物)を行う。 ②児童が自由に使用できるボールを用意する等、投げる力を高めるための環境作りに努める。</p>
指導改善 (組織的・計画的)	2	3	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.38のため。 ①授業研究では、外部講師を招聘し、国語の発問を中心とした中身の濃い研究が進められた。授業研究以外にも教職員の指導力向上として、不祥事防止研修やメンタルヘルス研修、防災研修、ICT研修等多岐の分野で行うことができた。OJTがなかなか計画的に進められなかったため、今後、短時間でも集まり、スキルアップする時間を確保していく必要がある。 ②教職員数が少なく厳しいところではあるが、全体の学力を高めるため、学力向上の取り組みを行ったり指導体制を整えていったりする必要がある。</p>	<p>①来年度も短時間でも良いので、授業研究会以外にも多岐にわたる研修(ICT等)を計画し、教職員のスキルアップを図る。 ②パワーアップ時の課題について、学校として統一したものを用意する。また、一部の学習(単元)をTT体制で行う。</p>

育ちと学びを支える連					
①	家庭・地域との連携・協働	2	3	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.48のため。</p> <p>①HPや学校通信などを活用し、定期的に児童の様子や学校での取組を発信することはできている。ただし、HPの「学年の様子」では、各学年によって発信する頻度にばらつきがある。そして、今回、保護者アンケートより、本校のホームページが見つらいとの意見をいただいている。</p> <p>②コロナの考え方も変化していったこともあり、児童の「手洗いをいつもするように気をつけている」評価が下がっている。</p> <p>③児童の避難訓練への意識は高い評価であるが、協力者の「学校の防災教育や感染症対策へ取り組み」の評価は下がっている。もっと地域の方にも学校の取り組みが見えるようにしていく必要がある。</p> <p>④夏休みの課題について、保護者アンケートより「子どもの力に合った課題を」という意見があった。</p>	<p>①HPの改善を行う。(情報主任が中心となり、夏休み終了までに行う。)また、HPの各学年のページの更新を月1回は行う。</p> <p>②手洗いの意識を高めるため、委員会の児童発信の取り組みを行う。</p> <p>③児童の防災教育にたいする意識は高いので、学校の取り組み(児童の避難訓練、教職員の防災研修等)をHPや通信、また、学校協力者会議で発信する。</p> <p>④次年度も家庭学習の手引きを配布し、家庭学習の意義を保護者にも理解してもらう。</p>
②	保幼小中の連携	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が1.77のため。</p> <p>総合的に評価が低い。</p> <p>①コロナ前と比べると制限もあり、子どもの交流はあまりできていない。しかし、そんなコロナ禍で制限された中でも、学校夢づくりプロジェクトにおいて、地域、小中学校、保育園、幼稚園が一堂に集まり、伊香立健康体操が実施できたことは良かった。また、職員の交流では、一部の職員に偏りがちな為、全職員に情報を共有していく必要がある。</p> <p>②接続のカリキュラムの話し合いができていないので、来年度は計画していく必要がある。道徳科を柱とした小中合同研修会を昨年度に引き続き実施することができた。</p>	<p>①来年度も学校夢プロジェクトで地域や保幼小中が集まり、伊香立らしい活動を行う。また、コロナの制限が緩まりそうなので、今まであった園児と小学生の交流(秋祭り、5.5交流)を行う。</p> <p>②来年度の夏休みに幼稚園と小学校それぞれの担当者が集まり、でカリキュラムの話し合いの機会をもつ。</p>
組織的体制の充実					
①	生徒指導体制の充実	2	3	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.44のため。</p> <p>①本年度は児童会が中心となって、「いじめゼロ！」キーホルダーやポスターを作成した。いじめは絶対してはならないということを子ども発信で行ってきた。</p> <p>②「あいさつ」や「正しい言葉づかい」が依然としてポイントが低い。学校全体であいさつができる子ども、正しい言葉づかいができる子どもの育成に学校全体で取り組まないといけないと考える。</p> <p>③教育相談は子どもたちの変化や悩みを早期に把握できる大切な時間である。担任と子ども、時には子ども支援コーディネーターやスクールカウンセラーともゆっくり話ができる時間を設けていかなければならないと考える。</p>	<p>①来年度も子どもたちが主体となったいじめ防止活動や縦割り活動、人権学習を積極的に行う。特にコロナにおける制限が緩和されたら、積極的な縦割り活動を行い、そこから友だちの良さや、違いを認められる子どもたちの育成を図る。</p> <p>②言われてするのではなく、子どもたち自ら挨拶ができるよう、児童会中心となってあいさつ運動を定期的に行う。</p> <p>③教育相談週間を1学期と2学期に設定し、担任と子どもがゆっくり話す時間をつくる。また、相談内容からすぐに教育相談担当、子ども支援コーディネーター、スクールカウンセラーとつなげるよう組織で教育相談週間に取り組む。</p>
②	特別支援教育の充実	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.3のため。</p> <p>①堅田少年センターや特別支援教育室等、関係機関と連携し、支援の必要な児童に対応することができた。支援のあり方についても助言をいただき、学校としての体制作りにも生かすことができた。作成した個別指導計画は、定期的に行う懇談の中で見直しを行い、家庭との連携を図ることができた。</p>	<p>①支援の必要な児童に対し、担任だけでなく、子ども支援コーディネーター、特別支援コーディネーター、教育相談等学校全体として関わることはできたが、専門家からいただいた助言や情報等を組織として共有していけるよう体制を充実させていけるよう今後も努めていく。</p>